

岡田幹事長が字幸地の遺骨収集現場を視察

民主党の岡田克也幹事長が1月9日、字幸地にある沖縄戦の壕跡を視察しました。壕跡は、平成21年8月から遺骨収集が行われ、旧日本兵と見られる遺骨が5体発見された現場。対応した上間町長や、遺骨収集団体がマフヤーの具志堅隆松代表らは「沖縄戦犠牲者の遺骨収集はまだ終わっていない」と戦後処理の状況を訴えました。具志堅代表は戦後処理事業の創設とともに、事業特区の適用と雇用の創出を要望。岡田幹事長は「沖縄に遺骨が眠っていることを受け止め、党で検討したい」とコメントしました。



緑のそばだー！坂田保育所の給食にシマナーそば

西原町産のシマナーが練りこまれたシマナーそばが12月8日、坂田保育所の給食に登場しました。そばの原料であるシマナーは、町が耕作放棄地解消対策事業の一環で実証栽培したものを使用。坂田保育所の全園児約120名分のそばをJAおきなわ西原支店女性部が作り、提供しました。園児たちは「おいしかった」「おかわりしたよ！」と笑顔を浮かべながらそばに舌鼓。この日は園児たちと一緒に給食を食べようと、上間町長と役場職員が参加し、各テーブルで交流しました。同保育所では普段から食育に力を入れており、シマナーそばを給食に活用することで地産地消が図られたと喜んでいました。



備えあれば憂いなし 町役場で避難訓練を実施

役場職員の避難に対する即応体制を確立し、防災意識の高揚を図ることを目的に、12月1日、町役場で防災訓練を実施しました。町役場で防災訓練を行うのは5年ぶりのこと。今回は役場職員を対象として、大きな地震が発生した想定で、地震時の身の安全の確保と避難行動に取り組みました。城間副町長は「意識の高揚を図るためにも定期的な訓練の実施が望ましい」と訓練を総括しました。



まちの話題

西原中の美術部生徒が各コンクールで大活躍

西原中学校(平良嘉男校長)の生徒が、今年度実施された絵画の各コンクールで相次いで優秀な成績を収めました。島袋彩さん(3年)と我那覇有紀さん(2年)が揃って平成22年度「私たちの文化財」(県教育庁主催)で最優秀賞を受賞、島袋さんは第47回全国中学生海の絵画コンクール((社)沖縄海事広報協会主催)でも金賞を受賞しました。また、下門かなこさん(3年)が第9回「おきなわの観光」絵画コンクール((株)かりゆし主催)で最優秀賞に輝き、受賞ラッシュとなりました。西原中は今年度から美術部が発足したことで文化活動が盛んになったとのことで、平良校長は「短期間でこれだけ才能を発揮したことに、大きな可能性を感じている」と今後の活躍に期待を寄せました。



町役場若手職員がまちづくりの研究成果と提案を発表

町役場の職員が町の調査・研究に取り組んだ成果と、まちづくりへの提案を発表する「まち研フォーラム」が12月23日、ムーンテラス東崎(字東崎)で行われました。フォーラムを主催した「西原町まちづくり研究会第5期生」は町役場の若手職員の有志が集まった団体で、行政組織の活性化を図るとともに、明るく、魅力あるまちづくりを提案することを目指して自主研究を重ねてきました。フォーラムに先立ち、基調講演に立った鎌倉市市民活動センター運営会議事務局長の渡邊公子さんが、自ら実践する市民主体のまちづくりへの参画について話しました。研究発表は研究員が2班に分かれ、「行政主導のまちづくり班」は行政の仕掛けによるひとづくりの仕組みと条例の制定を、「住民主役のまちづくり班」は先進地事例をもとに、住民ができることからまちづくりに取り組むことの提案をしました。



イルカ公園でさわふじを植樹

西原町商工会(小波津勇会長)は12月5日、東崎都市緑地(イルカ公園)で、さわふじ普及植樹キャンペーンを実施、町花木さわふじの植樹活動を行いました。事前に準備された植え付け用のさわふじの苗は、おおむね樹高3mの10年木で、23本の苗が重機を使って植付けされました。植樹活動には町商工会員や各通り会、事業組合などから約75名が参加。苗が順調に根付けば、来年の初夏ごろには公園内にさわふじの花が咲き、独特の香りを楽しむことができるとのこと。今後はさわふじを活用したイベントの実施などが検討されています。



新年を前にマリンタウンを清掃

ボランティア活動を身近に感じ、世代間交流とともに環境美化活動を図ることを目的に「第4回マリンタウン西原クリーンアップ大作戦(町社会福祉協議会、マリンタウンまちづくり推進協議会主催)」が12月19日、マリンタウン地内で実施されました。近年、初日の出スポットとして多くの人が訪れるようになっているマリンタウンで、新年を前に町内の各種団体や町民約400名のボランティアが清掃に参加、あがりティーダ公園や臨港道路が美しく生まれ変わりました。



中央公民館がボランティア清掃でヒカヒカに

12月19日、中央公民館をきれいにしようとボランティア清掃が実施され、サークル会員や団体、町民ら200名近くが参加しました。参加者はそれぞれ用具を持ち寄り、正面玄関の表札を屋上から洗浄したり、大ホールを3年ぶりにワックスがけするなど懸命に作業に取り組みました。その結果、2時間の作業で公民館がきれいに大変身しました。



内間御殿ゆかりの拓本を寄贈

玉那覇勝一さん(字与那城)所有の、内間御殿ゆかりの「致和」の拓本(墨で文字を紙に写し取ったもの)が町へ寄贈されることとなり、12月2日に寄贈式が実施されました。「致和」の拓本は、内間御殿の東江御殿に設置されている石製扁額(石に文字が彫られた額)から専門家に依頼して取った貴重なもの。同様の木製扁額が県立美術館に保管されています。寄贈を受け、上間町長は「町民の目に触れられる形で展示を検討したい」と喜びを述べました。



西原高校マーチングバンド部が日本一！

第38回マーチングバンド・バトントワリング全国大会が12月19日、さいたまスーパーアリーナで開催され、西原高校マーチングバンド部がマーチングバンド部門中編成の部(85名以下)で1位にあたる最優秀賞を受賞しました。報告のため町役場を訪れた部長の伊藤海(かい)くん(3年)は「西原町民をはじめ、たくさんの方の応援のおかげで日本一になれてうれしく思います。ありがとうございました」と感謝を述べ、顧問の比嘉一史先生は「今年は人数が少なく、中編成での参加になったが、大編成も含めた全体で3位の得点だった。とてもすごいことなので子どもたちを褒めて欲しいと思う。来年はグランプリを目指してがんばりたい」と力強く今後の決意を表しました。



小那覇交番に新所長が赴任しました

小那覇交番の交番所長に赴任した垣花武幸所長が赴任あいさつのため、町役場を訪れました。垣花所長は12月14日付で名護警察署から浦添署に異動し、小那覇交番へ配属されました。赴任にあたり「管内で発生する犯罪の傾向を研究し、徹底した対策に取り組めます。まず顔を知ってもらいたいのと、地域にどんどん出向いていきたい」と抱負を述べました。

